

---

# GLANZ

パニラー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

GLANZ

### 【Nコード】

N5018BA

### 【作者名】

パニラー

### 【あらすじ】

今より先の未来。

実験の失敗により突如現れたダークマターと、その魔物フィンスタリス。

人類は彼らに地上を奪われ、地下へ逃げ込んだ。

そんな中作られた戦う力。それらを用いて闇と戦う者たちを人々は光を纏いし者 『グランツ』と呼んだ。

\*\*\*

- ・更新遅めです。
- ・感想、レビュー、お待ちしております。

? 1 / 14 『 0 プロローグ 』 公開

## 0 プロローグ (前書き)

この物語はフィクションであり、登場する地名や人物は空想上のものです。

また、残虐な描写が見られるので苦手な方はお控えください。

## 0 プロローグ

今から数十年後、宇宙調査を格段に進めていた。

地球温暖化は緩やかにはなったものの、人口が増え続けるために完全に止めることはできない。

そこで今まで以上に宇宙開発に力を入れ、調査を進めてきた。

西暦2054年。

宇宙から帰還した調査団がある変わったものを持ち帰った。

黒と赤で塗装されたフットボールのような形のカプセルで、中には液体が入っていてその中心には黒い小さな生物のようなモノが浮いていた。

数年振りの成果が上げられると盛り上がり、そのカプセルは調べられることとなる。

発見から約一年後、人類は新たなる希望の第一歩としてそのカプセルを開けることに決定した。

その開放式。

巨大な施設の研究所。その中でも最新鋭の技術が駆使された建物。そこで行われる。

「これより、謎のカプセル『ダークマター』の開放式を始めたいと思います」

体育館一つ分のスペースのある場所の真ん中で白衣に身を包んだ初老の男性が告げると、この世紀の瞬間を目にしようと集まった二階の閲覧席の人々が拍手を送った。

そして、その時はまもなく訪れる。

「では、開きます」

カチリ。と、ショーケースの中で小さな音がして中から半透明な液体が漏れ出してきた。

その光景を前にその場にいる者のほとんどが固唾を飲み込んだ。静かに、ゆっくりとカプセルが開いていく。やがて、異変が起きた。

その日から数日後。世界中から光が消えた。

北アメリカ大陸を中心に広がっていく黒い雲のようなものが後々人工衛星で確認された。

地上では黒い霧が広がり、それに触れた街灯、信号機、テレビ、家の電気全てが消えた。

世界中が混乱に陥ったが、人々は順応して、数カ月後に落ち着きを取り戻した。

昼間は黒い霧は発生せず、普通に暮らせる。しかし、夜になり日が落ちるとどこからか霧は現れ、光が失われる。

これだけの現象ならばまだよかった。本当の悪夢はこれからだった。

ある日、世界中で何人かの人何かで引き裂かれるという事件が起きた。

世の中はそこまで治安を維持できていない状態だったためにそれは同時多発テロとも考えられた。

しかし、殺人事件は頻繁に起こるようになり、そこでようやく犯人の正体が判明した。

それは黒い霧が一ヶ所に集まり鬼のような姿の怪物だった。

怪物の出現により再びパニックに陥った世界。そのまま世界の人

口の七割が殺されてしまった。

人々は地下で暮らすようになり段々と生きる希望を失いかけていた。

霧の名称は「ダークマター」。

そして、ダークマターが集合して形を為す怪物は『フィンスタリス』と命名される。

調査した結果、ダークマターは光を吸収し、成長する。

しかし、太陽のように強力な光は吸収できないようで消滅する。

もう一方のフィンスタリスはダークマター同士が強く結び付くことで強力な光を克服。まるで光を寄せ付けない鎧を纏った怪物だ。

対策としては物理的な攻撃を食らわせて結合を分解させ、そこで強い光を浴びさせることで倒すことができる。

と、このように理論では分かっているも戦おうとする者はなかなかいない。

そのままの状況が続くが、政府はある技術を生み出した。

長年フィンスタリスとダークマターへの対抗手段の研究を重ね、ついに完成した鎧。

『Armor Of Revenge 反撃の鎧』 『AOR』だ。

地下で暮らす内に自然と発達していった太陽光を利用する研究の中で生まれた新しい理論。

太陽光ならフィンスタリスに対抗できる。その考えから太陽光エネルギーを使った鎧が産み出されたのだった。

そして、エネルギーを最大限に活かすために鎧の一部を体に埋め込み、同化を図る。そして、強力な太陽光エネルギーで身体能力を底上げさせる。

それがAORの能力だった。

しかし、それを埋め込むにも条件があった。

体の細胞にAORが適合しなければ筋組織が崩壊してしまうとい

うものだ。

そのせいで何人かの戦力が削れてしまった。

だが、その犠牲のおかげで適合条件が分かり、以降はコンピュータで管理し、そのような事故は起こりにくくなっていった。

西暦2060年。

かつて島国ながら巨大な経済国となっていた日本。

人々は地下で暮らし、地上にいるのは埋葬もされない無惨な肉塊と黒い霧、フィンスタリスだけ。

しかし、その状況もようやく終わる。

『こちらベース。応答せよ』

「こちらチーム。どうぞ」

『前方に移動する物体あり。おそらく奴らだ。一匹残らず掃討しろ』  
「了解」

誰もいない建物と建物の間を駆け抜ける人影が複数あった。

全員パワードスーツのような、昔あった漫画のロボットを小型化したような姿だ。

その鎧こそがAOR。

やがて、彼らの目の前におぞましい鬼の姿をした魔物が現れた。

「目標を確認。これより討伐作戦に移行する」

彼ら四人は一人ずつに分散し、敵を囲んだ。

「目標、オーガ。ただちに殲滅するぞ！」

「了解！」「了解！」

それぞれ、片手剣、長剣、長銃、両手に短銃を構える。

鬼　オーガは警戒し、姿勢を低くする。

「撃てえ！」

一人の掛け声を皮切りに銃から光線が発射される。

まず二発の攻撃がオーガの顔と右腕に当たる。



その隙に一人が片手剣で足を切りつける。

すると、それらの部分にヒビが入ったように変色し、オーガは膝をついた。

「喰らえ！」

そこへ長剣が振り上げられ、オーガは大きく吹き飛ぶ。そして、体全体にヒビが広がっていく。

「グランツ！」

長剣の一人が左手をオーガに向けながら叫ぶと、手の平から強い光が放出された。

その光はオーガを包み込むと、オーガは砕けちって消えてしまう。

『目標の消滅を確認。チーム は直ちに帰還せよ』

「了解！」

「おっ？」

一人が立ち止まり、全員が同じように止まって同じ方を向く。

「久しぶりだー！」

「凄い……綺麗」

「本当に！」

それぞれが昇る朝日を見て眩く。

強い光を受けてダークマターの霧はすぐに晴れていった。

「……この光景を下の人たちにも見せてやりたいな」

「何言ってるの！必ずいつか見せるんでしょ！？」

「ふっ。そうだったな」

この朝日を自由に拝めない世界を元に戻す。それが彼らの目的であり目標。

「さあ、戻ろうか」

そのためにどんなに危険を冒しても

「ッ！？リーダーッ！！」

「ぐっつ！？」

どこまで世界が狂っていようと

「逃げ、ろ……ッ！」

「……チクシヨウツ！！撤退だ！！」

いつか訪れるであろう未来を夢見て

「はは……約束……守れなか」

彼らは戦い続ける。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5018ba/>

---

GLANZ

2012年1月14日12時57分発行